

黒インクでご記入ください。  
 持込欄の不可・可のどちらかに必ず をつけてください。

2007 年度(春)・秋学期中間試験				問題枚数	1/1	
科目名	出題者氏名	受験クラス	学生証番号	氏名		
プログラミング実習	山本宙	DD-II・DM-II				
持込	不可	可の場合は、記入	開講曜日・時限	現在使用して いる授業教室	12 — 309	採点
	可		土曜 1,2 限			

問 1 (各 3 点, 計 33 点)

以下の各文の空欄を埋めよ。

- コンピュータの 6 つの主要な論理ユニットは、  
 解答 1-a, 解答 1-b, 解答 1-c,  
 解答 1-d, 解答 1-e, 解答 1-f である。
- 高級言語を機械語に翻訳するプログラムを  
 解答 1-g という。
- どの C プログラムも  
 解答 1-h 関数から実行される。
- どんなプログラムでも 3 種類の制御構造、  
 解答 1-i, 解答 1-j, 解答 1-k を  
 使って書く事ができる。

問 2 (各 4 点, 計 20 点)

以下の各機能を果たす C の単文を書け。

- 整数型の変数 sum と x を宣言する  
 解答 2-a
- 変数 x を 1 で初期化する。  
 解答 2-b
- 変数 sum を 0 で初期化する。  
 解答 2-c
- 変数 x を sum に加え、その結果を sum に代入する。  
 解答 2-d
- 文字列”和は:”の後ろに変数 sum の値をプリントする。  
 解答 2-e

問 3 (17 点)

問 2 で書いた文を用いて、1 から 10 までの整数の合計を計算しプリントするプログラムを作れ。和の計算とインクリメントの繰り返しには while 反復構造を使うこと。反復は x の値が 11 になったとき終わるようにする。

解答  
3

問 4 (4-a 10 点, 4-b 20 点, 計 30 点)

以下の 2 つのプログラム 4-a, 4-b について、コンパイルし、実行したときの実行結果をそれぞれ示せ。

```
#include <stdio.h>

main()
{
  int i = 1, x = 1;

  while(i < 4){
    x *= i;
    i++;
  }
  printf("%d\n", x);
  return 0;
}
```

プログラム 4-a

解答  
4-a

```
#include <stdio.h>

main()
{
  int counter;

  for(counter = 1; counter <= 4; counter++){
    if (counter < 3 )printf("A:%d\n", counter);
    if (counter >= 2 )printf("B:%d\n", counter);
  }
  return 0;
}
```

プログラム 4-b

解答  
4-b